

「不易」と「流行」 誠実・克己・忠恕

～「利をはなれ 心のすべて無なる時

有を生ずる 世とぞ知りたり」・・・～

1年後は60% 3年後は40% 5年後は15% 10年後は5% 50年後は0.7% 100年後は・・・0.03%
これ何の数字がわかりますか？・・・実は・・・これ・・・設立された会社の存続率になります。100年存続する会社は世界的には0.03%しかないんです。でも・・・日本には何と・・・約5万社もあります。ブランドといえる会社は時代の洗礼を生き抜いています。ルイヴィトンが1854年（ペリー来航は1853年です）から。カルティエは1847年からです。

でも、日本にはもっとすごい企業があります。創業578年、聖徳太子（厩戸王）が4歳の頃に創業した会社があるんです。1440年以上の歴史を持つ会社、大阪の建築会社『金剛組』です。

金剛組のHPに会社の理念が掲げられています。

「常にお客様から求められる存在でありたい。頼んでよかったと感じていただきたい。そのような気持ちが社寺建築一筋に1400年余続いた原動力となっています。」と。

さてタイトルの和歌ですが、これは日本の饅頭の元祖として創業から675年の歴史を紡ぎ、時代の風雪に耐え、代々の当主が暖簾を守り続けてきた塩瀬総本家の第34代当主を務め、百歳を迎えられた川島英子さんが詠まれた和歌です。川島さんのインタビュー記事を紹介すますね。では、どうぞ

「長く愛されるお店、繁盛し続けるお店に不可欠なことは何だと考えていますか？」

「私がずっと大切にしてきたのは「温故知新」という言葉です。故きを温ねて新しきを知る。うちの場合、『材料落とすな。割り守れ。』の教えの通り、昔から配合や作り方は一切変えていません。普通のお饅頭は小麦粉に膨らし粉を入れて皮を作りますが、うちではお米の粉ととろろ芋なの。だからしっとりとしておいしい。これが塩瀬のお饅頭なんです。」

「また、代々受け継がれてきた家訓もまた、『不易』の教えとして心に留めて日々実行に努めていますね。老舗の暖簾に安住せず、常に我欲を捨てて本業の商いのみ一意専心せよ、という心得が随所に説かれているんです。」

「一方、先ほど申し上げた百貨店への出店をはじめ、売り方やデザインといった部分は時代に合わせて変化させていく。やっぱり暖簾を守り続けるには伝統を踏襲するだけでなく、日々創業の心意気で時代の流れを読んで絶えず新しいことに挑戦し、革新していくことが大切だと思います。」

「幾多の試練を越えて百歳を迎えられたいま、人生で一番大事と思うものは何でしょう？」

「握らないことです。握らないというのは欲をかかないこと。握ろうとすると逃げるの。だから握らない。追いかけない。放すことです。」

「欲に対して執着しないと？」

「そうそう、そうしないと運は開けません。私がつくった和歌に・・・

『利をはなれ 心のすべて無なる時 有を生ずる 世とぞ知りたり』

とあるけど、生き方のヒントはこれです。調子のいい時でも決して驕らず、沈むときに備えて蓄えておく。反対に調子の悪い時には決して腐らず、今は沈んでいても後々必ず浮く時が来ると信じて「無理なることをすまじき事」で暮らす。ただし、決して歩みは止めない。投げ出したり諦めたりせず、やめずに細々とでも続けることです。」

「致知」12月号 「我が百寿の人生を歩み来て」インタビュー（致知出版社）より



室町幕府8代将軍
足利義政直筆の看板と
川島英子さん

経営者へのメッセージだけでなく、君たち若者へのメッセージのように思いませんか？